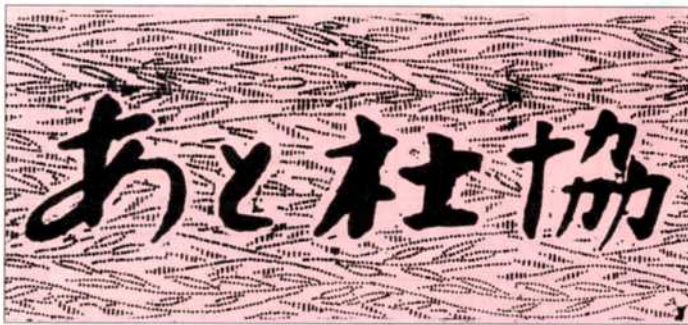




会報第118号

平成23年 6 月27日発行

阿 戸 地 区 社 会
福 祉 協 議 会
広島市阿戸福祉センター内
電 話 856-0294

阿戸町の世帯・人口

世 帯 数	951戸
人 口	2,370人
男	1,173人
女	1,197人

(平成23年 4 月末現在)



阿戸児童館まつり (平成23年 2 月26日)

会長就任あいさつ

阿戸地区社会福祉協議会

会長 松田 康憲

東日本大震災で被災されました皆様にご見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

さてこの度、前会長の辞任に伴い新たに会長に就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

たします。

連合町内会会長を兼務することになりますが、連合町内会では、目下「元気な阿戸町」を目指してまちづくりを進めております。その中で、福祉の視点からこれを一層進めて参りたいと思います。

阿戸地区社協は、これまで諸先輩の方々が阿戸町の福祉の発展のためにご尽力され、多大の成果を上げておられることに、心より敬意を表したいと存じます。

そうした中であつて、昨今の社会経済情勢の変化もあり、阿戸地区社協のあり方について見直しをしたかどうか、との多くの意見があり、阿戸地区社協内に、「事業見直し検討委員会」を設置し、廃止すべきもの、改善すべきもの、新たに事業を始めるもの、等について取りまとめを行い、今回一部見直しをいたしました。見直しの目玉の一

つは、これまで行っている高齢者・障がい児等の事業に加え、子育て支援事業を行うこととし、その一環としてこの度、新小学一年生(十五人)に入学祝いの記念品を贈呈しました。新入年をはじめ皆様から大変喜ばれております。

またもう一つの目玉は、四つの部会を設置し、それぞれの部会を中心に事業を行うことといたしました。この部会は、理事、評議員、ボランティア等の皆様の参加を頂き、計画から実施まで全て、責任を持って行うこととしたものです。これまでの事業を尊重しながら、新しい発想も取り入れて、皆様が参加し、阿戸町の福祉を作り上げて行くとするものです。

子どもから高齢者まで、みんなが助け合い、支え合つて、そしてやさしく温かみのある、本当に阿戸町に住んで良かったと思われるような福祉のまちづくりを目指して行きたいと思っております。

これからも精一杯努力して参りますので、どうか皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成二十三年 予算について

事務職員費を廃止し、総額約二二〇万円から約一八〇万円に減額し、特別会計からの繰入れを行わない予算としました。

支出項目金額については検討委員会の提言にそつよう編成しましたが助成金等、他団体に関連する項目については経過措置として前年並みとしましたが、今後検討を行い来年度予算に反映させるものもあります。

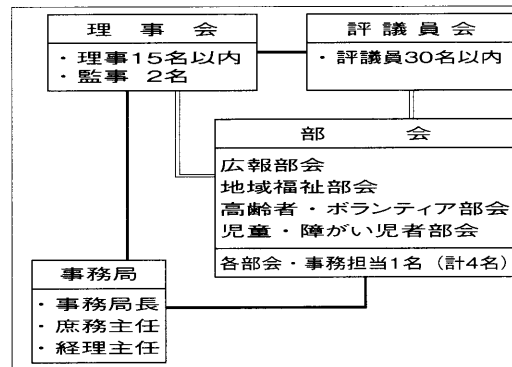
【収入】

費 目	予算額 [千円]	比 率
会 費	472	27%
補 助 金	420	24%
寄 付 金	650	36%
雑 収 入	1	-
繰 越 金	233	13%
収入計	1,776	100%

【支出】

費 目	予算額 [千円]	比 率
事 務 費	313	18%
広 報 費	250	14%
地 域 福 祉 費	395	22%
高齢者・ボラ推進費	600	34%
児 童 福 祉 費	177	10%
予 備 費	41	2%
支出計	1,776	100%

阿戸地区社会福祉協議会組織図



事務局の強化

平成十二年から事務職員を採用しておりますが、これを廃止し、ボランティアで対応することといたしました。具体的には、各種会議の開催、敬老会の実施、福祉関係の各種大会や研修会への参加、これらの取りまとめ事務等です。

このような社協全般の事務を総括するため、新たに事務局長の職を設け、各部会にも事務担当者や設ける等、事務局の強化を図りました。

更に新しく導入したOA機器を活用する等、社協の諸活動を支えて参ります。

広報部会

部会長 宇野 耕次

広報部会の主な事業は、阿戸地区社会福祉協議会の目指している事業の方向性や各部会が開催する事業の内容や各種機関で開催された行事の内容等を町民の皆様によりわかりやすくお知らせする、年三回の「あと社協」の発行を主な事業としています。

第一号の発行から早いもので三十五年が経過しておりますが、この間、諸先輩のご努力により様々な形で紙面の充実が図られてきました。

今年度は阿戸社協を紹介するパンフレットの発行も予定しております。

町民の皆様には様々な形で原稿のご寄稿をお願いすることもあるかと思いますが、その節はよろしくお願いいたします。

児童・障がい児者部会

部会長 高山 義昭

我々の部会は、子育て対策や障がい児者への理解を推進し、小中学校の児童・生徒と高齢者、地域の人のふれあいを基本として福祉活動を実践するもので、学校サイド、PTA、地域の各種団体との意思の疎通、連携をはかり各種事業を推進していきます。

このためには

一、福祉教育推進会議の充実

二、児童・生徒に「福祉の心」を醸成する事業の実施

三、子育て、子育て世代の母親対策事業の推進

四、障がい児者の理解と仲間づくり事業の推進

これらは、いずれも各団体との共同、連携を必要とするもので聴く耳を持って進んでいきます。

今後とも、変わらぬご指導、ご協力をお願いいたします。

各部会紹介

地域・福祉部会

部会長 景山 香葉

地域住民の方々が生き活きと楽しく安心して暮らせる「福祉のまちづくり」の一環を担うため、次のような活動を行う部会です。

一、安心して暮らせるまちづくりや、要援護者支援のための各種関係機関・諸団体などの情報交換や相互協力体制づくりをする。

二、各町内会や福祉懇談会などを通じて災害時や非常時での要援護者支援体制について協議し、これまでのネットワークを継続すると共に充実を図る。

三、老人クラブ単位会などと密接に連携し、いきいきサロンの設置・支援を行う。

高齢者・ボランティア部会

部会長 真藤 和夫

一番の仕事は、配食サービスです。昨年までは、月一回二回の人に分けて配食していましたが、本年度は区別なしに月一回にさせて頂きました。毎月第二土曜日が配食サービスの日です。料理を作るボランティアは現在二十八名。四名ずつでチームを編成して、今年一年間の当番表をつくり実施して参ります。配食を受ける高齢者に美味しいものを味わって頂き、弁当を手渡しする時の笑顔を「ふれあい」の宝として料理作りをして参ります。

また、弁当を車で配って回るボランティアの人は現在九人の方が予定表をもとに二台の車でお配りしています（地域を二つに分けてお配りしています）。

配食以外では高齢者と児童館との交流会、高齢者と幼稚園児、保育園児との交流会を実施いたします。住民福祉講座の開催や食中毒予防講習会等を開催し、更にボランティアバンクの開設で、困った時に気安くお手伝いができるような町になるよう力を合わせていく予定です。

【役員・評議員】

役職・名前・所属部会 (◎は部会長)・出身団体 (役職別に五十音順)

◆ 会長 松田 康憲

◆ 副会長 高田 義昭

◆ 理事 石井 リツ子

宇野 耕次

景山 香葉

景山 尚文

川崎 博彦

真藤 和夫

土居 光明

横山 輝代子

監事 池田 正裕

◆ 評議員 小森 崇

伊藤 広子

井場 洋幸

植片 幸子

越智 子

景山 司

金盛 子

鉄穴 小

京才 宏

坂口 松美

末永 征

鈴木 昭男

中川 昭一

土肥 利

平田 泰宣

藤井 智み

古井 子

松田 子

宮脇 子

山村 子

村上 子

横路 子

吉本 子

児童

地域

高

地

母子寡婦福祉協会

交通安全推進隊

連合町内会(第四区)

青少年健全育成連絡協議会

小学校PTA

民生委員児童委員協議会

民生委員児童委員協議会

民生委員児童委員協議会

連合町内会(第一区)

老人クラブ連合会

連合町内会(第五区)

防犯組合

連合町内会(第二区)

中学校PTA

ボランティアグループ

ボランティアグループ

連合町内会(第三区)

民生委員児童委員協議会

連合町内会(第六区)

体育協会

女性会

ボランティアグループ

連合町内会(第三区)

連合町内会(第六区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

連合町内会(第五区)

阿戸小学校3年生と高齢者のわらぞうりづくり

平成23年2月2日



高村 帆香

井場トミエさんありがとうございました。さいしょはむずかしかったけどなれてきたらかんたんにできるようになりました。

キティーちゃんのぬのをにつけてくださってありがとうございました。さいしょはいたとき、ちくちくしたけど気持ちよかったです。

やさしく教えてくださってありがとうございました。楽しかったです。また教えてください。

山奥 充喜

安本さん、わらぞうりづくりを教えてくださいありがとうございました。

わらぞうりづくりはわらを足のおや指ではさんであんでいくのがいたくてむずかしかったです。

いっしょに食べたミカンがおいしかったです。ぼくは6こ食べました。

小坂 侑三

平田さん、わらぞうりの作り方を教えてくださいありがとうございました。いいわらぞうりができました。わらぞうりを作るのは大変でした。

とくに足にわらをひっかけてあんでいくのが大変でした。作ったわらぞうりは大切にします。



観音寺 輝

高山さん、わらぞうりづくりで教えてくださいありがとうございました。

いいわらぞうりができました。家にもって帰るとおばあちゃんが「うまくてきたね」と言ってくれました。

とてもうれしかったです。ほんとうにうれしかったです。

横路 紗楽

大背戸さん今日はありがとうございました。足でわらをあんでいくのはむずかしかったけど、わらぞうりができた時、うれしかったです。

今日つくったわらぞうりは大切にします。

倉橋 康次郎

植田さん、今日はわらぞうり作りにわざわざ来てくださってありがとうございました。

植田さんはぼくのことを「きょうじゃね」っていつてくれたからぼくはうれしかったです。ぼくはますますわらぞうりを作るのが楽しくなりました。またいつか秋に作ってみたいです。

今日はいいい勉強になりました。ぼくの足にぴったりのわらぞうりができてとてもまん足しています。

ウォークラリー大会 に参加して

阿戸幼稚園



園長 谷川 利信

冬ごもりの虫たちが土の中から顔を出すこの時期に行われる阿戸町ウォークラリー大会に、阿戸幼稚園の園児たちと一緒に参加させていただくようになりました。

当初は、四・五歳の園児たちが最後まで歩き通すことができないのだからかと不安を抱えながらの参加でした。毎年幾度となく、園児たちの足が止まりかけたこともありましたが、しかしコースの所要所で楽しいゲームを企画していただいたり、温かい言葉で励ましていただいたりして、園児たちの力を引き出していただきました。お蔭様でこれまで誰一人途中棄権することなく、歩き通すことができました。小学校就学前の園児たちにとって、大きな自信になったと思います。

この大会に向けて、綿密に計画・準備がされていたコースやウォークラリーのグッズに景品、そして安全に活動できるために実行委員会の方々と交通安全推進隊の皆様のきめの細かい配慮、さらにはゴールした後に

いただいたおもしろいお話にぎりなど、大会を支えてくださる多くの皆様の熱い思いや優しさは、参加させていただいた私たちの心にいつまでも残っておりまう。本当にありがとうございました。

園児や小学生たちが将来大人になったときに、ウォークラリー大会の実行委員のメンバーとして活躍している姿を想像してみても楽しいことです。そのためにもこの大会が今後益々発展されますことを願っております。



児童館まつり

阿戸児童館

館長 奥本みどり

児童館まつりは母親クラブと公民館、留守家庭子ども会、保護者会の共催によって、毎年二月の下旬に行われています。

オープニングでは、公民館のホールで子ども達の日頃の練習の成果を発表します。昨年度は「子ども達の遊び」と「銭太鼓」を曲に合わせて披露し、地域の方々からいただいた暖かい拍手は、子ども達の大きな自信となりました。

午後からは児童館のゲームや工作に子どもだけでなく大人の方も参加し楽しんでいただいています。

子ども達が主役になり、地域の方と触れ合う場となる「児童館まつり」でこれからも阿戸の子ども達の成長をお届けしたいと思います。

(※一面に写真掲載)



善意の灯

次の方々から、ご寄付をいただきました。この善意は住民福祉活動のため、有効に活用させていただきます。

ご厚志、まことにありがとうございます。

◆香典の返礼にかえて

川崎 忠文様

坂井 浩司様

林 摩喜男様

出口 勝紀様

大月 富雄様

◆見舞いの返礼にかえて

居貞 節子様

吉本 玲子様

◆一般寄付

ままはうす

さふらん薬局(熊野町)

●阿戸社協のつぎ

新成人に記念品贈呈

第四回理事会

四区小地域福祉懇談会

「あと社協」第一一七号発行

小学生と高齢者のわらざりづくり

第二回配食サービス委員会

会

3/3 2/14
第三回臨時理事会
園児とのひなまつり交流会

3/16 3/9
地域調整会議
福祉防災会議
第四回臨時理事会
会計監査

4/25 3/28
毎月配食サービスの実施

編集後記

東日本大震災の犠牲となられました数多くの方々のご冥福を心よりお祈りし、一日も早い復興を願っております。

このような大災害の前に人間の営みなど、何と無力なものなのかと改めて思い知らされました。

今回の報道の中でしばしば取り上げられていたのは、地域の社会福祉協議会でした。やはり地域に根ざした社協が一番頼りになると同時に、社協でなければ出来ないきめ細かな活動が求められていると思いました。

阿戸社協も大きく生まれ変わりました。我が阿戸町においても、益々社協の役割が重要となります。今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。

広報部会長 宇野 耕次